

協力

63



伝道団体連絡協議会

〒101-0062
東京都千代田区神田駿河台2-1 OCC 614号室
Tel. 03-3291-5035
www.dendankyo.com

FRONT ESSAY

使命に伴う 健全性



小さないのちを守る会代表

水谷 潔

ある方が著名な栄養師の講演に出席。講師は開口一番、聴衆に問いかけます。「人間の体は何からできていますか？」その方が、「筋肉はたんぱく質、骨はカルシウム……」などと、考えを巡らしていると、講師が正解を発表。「人間の体は食べたものでできているのです」。

昨今は「食の安全」に対する意識が急速に高まっています。人間の体は食べたものでできているのですから、当然のことでしょう。直接体内に入るので、食の安全性は私たちの健康に直結し、長い目で見れば命にかかわる重大な問題に違いありません。

かつて消費者の評価基準は「味」と「価格」。安くておいしければ売れたのです。しかし、今は「味」と「価格」と共に「安全性」も評価基準。どんなに安くて味が良くても安全性に不安がある食品ですと、消費者は離れていきます。

今、同じことがキリスト教界でも、起こっているように思います。働きや教えの「内容」や「価値」と共に「健全性」が問われる時代が到来したかのようです。教会のカルト化、教職者の不祥事、それらへの不十分な対処や自浄作用の喪失など。そうした残念な現実が、一般のメディアを通じて、キリスト教界のみならず、教会の外の社会へも伝えられています。今、キリスト教界は内側では健全性を保ち、外に対してはそれを証しする責任が問われているのではないのでしょうか？

諸教会に仕え、協力し、支えられて働く伝道団体も決して例外ではないでしょう。「充実した働き」、「価値ある働き」であることと共に「健全であること」が、今後はより一層、求められることが予想されます。諸教会のみならず一般の社会からも信頼をいただくためには、健全性を保ち、それを証しすることは、伝道団体にとって一つの大きな課題かと思われます。

食品業界では、表示について厳しい規制を設け、時には生産者の顔写真と名前まで示しながら安全性をアピールし、消費者の信頼を獲得しようと努力しています。私たち伝道団体も、活動報告、会計報告、規約の整備、運営や会計の透明性、外部からのアドバイスを受け止める柔軟な組織、自浄作用を発揮しうる体制作りなど、具体的な事柄を通じて健全性を保ち、証しすることも使命に伴う重要な責任ではないのでしょうか。

しかし、健全性のために最も有効なのは交わりかと思えます。大切なのは伝道団体自身が他団体や諸教会との交わりに生きることです。伝団協の諸団体が、互いに学びあい、愛し合い、祈りあい、支え合う中で、自らの健全さを常にチェックし、時には軌道修正しながら、健全であり続けていけること。それはどんなに大きな恵み、感謝なことでしょうか。



主題

日本における「教会音楽の動向」

講師：佐々木ヨシユア (JMMS 校長)

日時：2008年11月14日 (金) 14:00~16:00
会場：お茶の水クリスチャン・センター 901号室



＜佐々木ヨシユア師より＞

その昔、キリスト教の礼拝音楽は、音楽界のトレンドを牽引していました。しかし、残念なことにいつからか教会の音楽は固定化し、ただただ伝統を守ることに力を注ぐのみになってしまいました。

今から四十年位前から、ポピュラーミュージックの演奏形態を持つ、新しい教会音楽が発展し始め、現在では米国、英国、豪州のプロテスタント教会では、それらが礼拝音楽の主流となりつつあります。音楽技術の著しい進歩と、メディアを駆使したプロモーションにより、すさまじい広がりを見せています。

米国内では、このようなクリスチャン音楽は1千億円産業となっています。これは日本の軽音楽産業の3分の1の規模で、とても大きいものです。

日本の教会は、この新しい礼拝音楽の導入には大変慎重で、この領域の拡大は遅々として進んでいません。

平均年齢が60歳以上の教会が70パーセントという、超高齢化の日本の教会の現状を打破するためには、教会で行われる礼拝そのものが、より魅力的でなくてはならないということは、皆が気づいていることだと思います。そして、そのためには主日礼拝のかかなりの部分を担っている音楽のクオリティー向上と、使用楽曲の変革が急務なのです。

日本のキリスト教会をとりまく環境は独特ですので、海外の成功例をそのまま取り入れてもあまり意味はないと思います。しかし、それらの成功例の本質を学び、これからの日本の伝道を考えていくことは、大変意義のあることだと思っています。

この十数年、いろいろな場所や書物で学ばせていただいたことを元に、お分かちさせていただければと思っています。

教会と音楽は切り離せない。重厚なグレゴリアン・チャントから最近のヒットポップ的な音楽まで、いろいろ。ウエスレーの時代に鉦夫もわかり受け止められるようにと、歌詞も簡単なもの、曲もこの世で流行っているような旋律、誰でも歌える音楽を模索した。それが大衆伝道につながり、英国を福音で覆っていった。

日本にプロテスタントの宣教活動が始まったのが1859年。来年で150周年になる。当時を振り返って、日本人になじみがあり、日本人の心に届く旋律、楽器が用いられたのだろうかと思う。きっと「異教的」というレッテルが貼られ、教会には入って来れないようにしたのではないかと推測する。西洋の音楽が賛美歌として入ってきた。なじみのない音楽、まったく知らないキリスト教。そこで日本では、「キリスト教は西洋の宗教」という概念が定着したのではないだろうか。もちろんアメリカからの宣教師によって伝えられたので、「西洋の物」と言われたのであろう。

尺八で「いつくしみふかき」を演奏すると、虚無僧の楽器で賛美歌を演奏しないでくださいという声が出る。ギターを使って「友よ、うたおう」を演奏したら、教会音楽の専門家から苦情が出た。

日本の教会音楽も変遷している。最近の若者の曲にお年よりはついていけない。かといって賛美歌では若者はその意味すら理解できない。ある教会では、将来を考えて、22歳にターゲットを絞り、音楽もその層に合うようにした。そうしたら高齢者が礼拝に来なくなった。笑えぬ話である。

そこで最近の教会音楽はどのような変遷をしているのだろうか、教会音楽の指導者を養成しているJMMSの佐々木学長にお越しいただいて、お話をうかがおうと企画した。

伝道団体連絡協議会・会長 姫井雅夫

各団体から多くの参加者を期待しています。伝道団体は教会より一歩先を歩んでいると思います。伝道団体を通して、新しい風が常に教会に吹き込んでくるように、そして教会が刷新されていくように、私たちの分をわきまえて最善を尽くしていきましょう。

2009年はプロテスタント宣教150周年です。

キリストにあってひとつ — 主イエスの証し人として

それから、イエスは言われた。「全世界に行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16:15 新共同訳)
それから、イエスは彼らにこう言われた。「全世界に出て行き、すべての造られた者に、福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ 16:15 新改訳)

安政6年、
150年前の幕末期動乱の日本に
福音を携えて彼らはやってきた。



ヘボン夫妻
(明治学院所蔵)



フルベッキ・ブラウン・シモンズ宣教師
(横浜開港資料館所蔵 [Verbeck of Japan])



ウィリアムズ宣教師
(日本聖公会管区事務所所蔵)

〈趣意〉

今から150年前(1859年)、幕末期動乱の日本に、宣教師によるプロテスタント伝道が始まりました。切支丹(キリシタン)禁教の高札がまだ撤去される(1873年)前のことでした。近代日本の夜明けに、彼らは日本人の魂を愛し、迫害をも恐れず、福音を携えて来たのです。以来、キリストの福音が広められ、教会、キリスト教主義学校、病院等が設立され、その結果、教育、人権、社会福祉、女性の地位改善、倫理の高揚など多くの感化がもたらされました。これらのことに対して私たちは深く感謝いたします。

この背後に、フランシスコ・ザビエルが来日(1549年)し、カトリック教会による宣教活動や沖縄でのベッテルハイムらによる働きがあったことを私たちは忘れてはなりません。私たちはキリストの教会として共に歩んでいます。

日本における宣教は困難をきわめ、それにともない多くの犠牲もありました。近年は物質的繁栄と共に、精神面の無関心が伝道を阻んでいます。さらに、教派教団間には一致が乏しく、宣教の業が大きく前進していないことを私たちは悔い改めねばなりません。

150周年を期し、これらのことを踏まえて、これからの宣教のために、一致協力して共に祈り、理解し合い、交わりを深めたいと願います。そして、私たちは、平和をもたらす「世の光」なるキリストを掲げて、次世代の人々と共に宣教の使命を果たしていきたいと思えます。

〈ご賛同のお願い〉

2009年、多くの方々から、この素晴らしい機会を捉え、祈りを共にし、日本の社会へ福音を宣べ伝える再度の機会としたいという願いが起こされました。

過去の歴史を辿りますと、1909年に「開教五十年記念会」が、1959年に「宣教百年記念大会」がそれぞれ行われており、わたしたちプロテスタント教会の節目となっております。

この度は、NCCグループ、JEAグループ、聖霊派グループ、その他、全プロテスタント教派が一致してこのような記念行事を行う機運が与えられる中、この実行委員会は、地方における、また各教会、各学校、各団体の記念行事の独自性をも尊重し、共に同じ祈りをもって連帯することを意図しています。皆様方には日本全土に、一つの大きなうねりとなりますようにと、まず趣旨賛同をお願いする次第です。

またその他、実行委員会への委員の派遣、支援、記念式典の出席なども、ご協力くださいれば感謝でございます。

日本プロテスタント宣教150周年記念実行委員長

山北宣久(日本基督教団 聖ヶ丘教会 主任牧師)

峯野龍弘(ウェスレアン・ホーリネス教団 淀橋教会 主管牧師)

大川従道(大和カルバリーチャペル 主任牧師)

目的

次の2点を中心に今年4月に全てのプロテスタント教派が参加できるようにとの願いから実行委員会が設立され、働きを進めています。

①2008年から2009年にかけて、各教会、各学校、各団体で行われる行事、集会を日本プロテスタント宣教150周年記念行事と位置づけ、同じロゴマーク、同じ標語で、同じ祈りの中に賛同して頂き、共に連帯しあう。

②2009年7月8日及び9日にパシフィック横浜にて、日本プロテスタント宣教150周年記念大会を開催し、日本プロテスタント宣教史の一里塚とする。



大会ロゴマーク/ロゴマークの使用に関しては事務局に問い合わせるか、ホームページをご覧ください。

決起大会

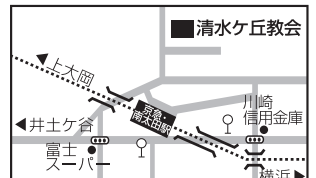
2008年 9月15日(月)

午後2時~4時

会場 日本基督教団 清水ヶ丘教会

〒232-0006
神奈川県横浜市南区南太田1-37-10
京急「南太田」駅より徒歩2分

参加をご希望の方は事務局にお申し込みください。



お車でのご来場はご遠慮ください。

日本プロテスタント宣教150周年記念大会

2009年 7月8日(※)~9日(※) 会場 パシフィック横浜

事前登録制

(注)「日本プロテスタント宣教150周年記念大会は、主イエス・キリストを救い主、神の子と告白する教団・教派・団体が一致協力して行うものです。」

パシフィック横浜 国立大ホール

5,000人収容

日本プロテスタント宣教150周年記念実行委員会事務局
<http://www.protestant150.org> (公式ホームページ)

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 (財)日本聖書協会内 電話03-3562-8725
E-メール protestant150thanniv@bible.or.jp

※伝道団体連絡協議会では日本プロテスタント宣教150周年記念に積極的に祈り、参加します。



NEWS FLASH

伝団協 加盟団体の 近況・祈りの課題

●総動員伝道

新潟県のトラクト配布伝道は終了。蒔かれた種が芽を出すように。来年に企画している「東海道53次 歩いて伝道 Walk with Jesus」のため。来年秋の首都圏キリスト教大会のため。

●日本伝道者協力会

9月に予定しているリトリートと総会、11月に予定している「日本伝統芸能フェスティバル」のため

●日本ミッション

日本ミッションのスタッフも高齢化。新しい伝道事業展開を進め、病院伝道から老人伝道へ。映画伝道からブライダル伝道へ。教会の英会話教室に宣教師派遣など行っている。証し月刊誌「よるこびの泉」の編集者を募集しています。ご推薦ください。

●光のミッション

使用済みのカセットテープを盲人宣教のために送る働き（フィリピンのRBI、スペインのヌエヴァ・ルス）が主の働きであるならば、続けていけるようにお祈りください。

●CLC・クリスチャン文書伝道団

CLCは世界53ヶ国で文書伝道の働きをしております。ミャンマーCLCでは大きな災害に逢いましたが、その困難を乗り越えて、さらに働きが進められております。

●JTJ宣教神学校

当校の昨年の入学者は、過去最高でした。しかし今年は、例年以下で推移しています。どうかこれから、例年の年間「120名」の入学者が与えられますように、お祈りお願い致します。

●B.F.P.Japan (ブリッジス・フォー・ピース)

2008年10月にB.F.P.フェスティバルを大阪・東京・札幌・旭川・福岡で開催いたします。「イスラエルをとりなすことを共に喜ぼう!」という祭典です。多くの方が参加されますようお祈りください。

●太平洋放送協会 (PBA)

テレビ「ライフ・ライン」は2009年に放送20周年を迎えます。番組・各地のラリー（伝道集会）共に、20周年記念スペシャルを計画しています。番組が豊かに用いられるようお祈り下さい。

●日本キリスト伝道会

「第40回 日本伝道の幻」を語る会（8月25～27日）が行われました。昨年に引き続き、本会よりキャラバン伝道に行った、開拓5年目を迎えた網走一麦伝道所の働きが祝福されるように。

●全日本リバイバルミッション

2009年5月28日(木)～31日(日)、韓国の仁川三山ワールド体育館にて「韓国リバイバルミッション」を行います。その祝福のためにお祈り下さい。

●日本聖書協会

1) プロテスタント宣教150周年記念の準備と働きのために。2) アートバイブル2が発売されました。さらなる聖書の読者層の拡大のために。3) 海外日系人教会へ引き続き聖書を送付しています。これらの働きのためにお祈りください。

●小さないのちを守る会

働きがさらに拡大し、いのちが守られるように（「誰でもよかった。殺したかった。」＝無差別殺人は生命軽視の一断面です。まず、生命のはじめを抹殺する人工妊娠中絶の防止から生命の尊さを叫び続けることが出来るように）。若い人々への啓蒙活動が進むように。本部運営委員会、新たに発足した東京支部委員会、各支部の働きのため。

●日本国際飢餓対策機構

1) 四川省、ミャンマーの被災者支援の継続的な働きのために。2) 秋の「世界食料デー」キャンペーンの教会での取り組みの広がりのために。3) 7月にウガンダへ派遣された青山亜紀子スタッフの働きのために。

●アジアンアクセス

◇6月に、ジョセフ・ハンドレーが新総裁に就任しました。お祈りを感謝します。◇JCGIネットワークでは、現在、全国で8箇所の教会増殖ネットワークを行なっています（基本的に3年間）。新たに北関東、西東京、関西の各地区で準備が始まりました。お祈りください。

●ハーベスト・タイム

地上波デジタル放送開始まで3年を切りました。撮影機材更新のためには、数千万円かかります。必要が満たされますように、お祈りください。

●新生宣教団

1) 迫害下にある兄弟姉妹たちのために。特に中国にある兄弟姉妹の日々の歩みのため。2) 新生宣教団スタッフの健康のために 特に交代制で働いているスタッフのため。3) ノンクリスチャンのアルバイトの方々の導きのため。

●いのちのことは社伝道グループ

1) 星野富弘氏の最新刊『星野富弘 ことばの雫』を、6月に出版しました。同氏がこれまでの著作やインタビューで語った、読者にとって生きる支えとなる言葉を一冊にまとめております。7、8月には軽井沢にて同氏の『花の詩画展』を開催し、好評を博しました。また、この詩画展に合わせて、同氏の詩に曲をつけたCD『日野草のうた』を発売。これらの書籍やCDを通して、多くの方に福音が伝わりますようにお祈りください。2) いのちのことは社（本社）移転のために/12月予定。

●国際ナビゲーター

8月末にある、軽井沢での全国インサイダー・カンファランスが、全国の職域や家族や地域での伝道とコミュニティ・ネットワークの土台形成となりますように。◇9月末に持たれるナブ・コムのお会によってパートナーとの関係つくりが広がられていきますように。

●高校生聖書伝道協会 (hi-b.a.)

2学期のhi-b.a.定期集会（関東17集会、関西7集会）のために。一番長い学期で、学校行事も多くあります。クリスチャン高校生の訓練と未信者高校生の救いのためにお祈りください。センター（渋谷）とキャンプ場（上総一ノ宮）が有効に用いられるように。

●こころの友伝道全国連合会

第55回「こころの友伝道」全国大会～主題「こころの友となる」～病める現代社会の中で（ヨハネ15:11～14）一が行われました。時：2008年8月18日(月)～20日(水)、会場：茂庭荘（〒982-0251 仙台市太白区茂庭字人來田西143-3 TEL: 022-245-5141）主催：こころの友伝道全国連合会 〒160-0021 新宿区歌舞伎町2-19-11 TEL/FAX: 03-3200-5584 Eメール: kokoro54@galaxy.ocn.ne.jp

●教会インフォメーションサービス

1) 日本の教会に顔を向けた情報を提供し、日本の教会の前進に役立つ奉仕ができるように。2) 教会インフォメーションサービスの働きを支えてくださる同労者が与えられるように。3) 経済的にしっかりした土台を築き、よい情報を提供することができるように。